

## 第9回決算書アナリス試験出題の趣旨

**問題の構成と内容：** 構成は、4部構成で、選択問題（第1問）、収益性の問題（第2問）、安全性の問題（第3問）、投資の問題（第4問）となっており、構成はこれまでの回の「試験」と変わらない。すなわち、テキストの叙述に沿い、第2問以降は、企業活動の評価分析としての収益性と安全性ならびに投資の分析になっている。第1問は、テキスト全般から、決算書・財務諸表分析の知識を問う問題である。

**第1問**は、選択問題であり、第2問以降で触れられなかった事項を問い、試験として、決算書アナリストとしての決算書分析の総ての範囲の知識を問うことを意図している。テキスト（第4版）により各問の該当のページを示しておく。

1. →P.28.    2. →P.15.    3. →P.12.    4. →P.39.    5. →P.52～53.  
6. →P.54.    7. →P.54.    8. →P.64.    9. →P.21.    10. →P.18.

なお、1. は分析手法の意義、2. から4. は決算書からえられる情報、5. から7. は企業活動と分析指標の関係、8. から10. は第2問以降で取り上げられなかった決算書（財務諸表）の見方を問うている。

**第2問**は、収益性に係る問題である（テキスト、第4章）。ここでは、先ず（問1）、実際の損益計算書と貸借対照表を示し、ここから指標を計算する実践力を問うている。次に（問2）、分析に係る基礎的な思考法を問い（テキスト、P.35.）、その後、分析を深めて、営業活動に焦点を当てて分析を深め（テキスト、P.44～46.）、最後に、比率から推理される企業活動の実態の認識力を問うている。

これらの解答作成により決算書分析の実践力がえられる筈である。

**第3問**は、安全性に係る問題である（テキスト、第5章）。新聞記事により、資産（この場合、投資有価証券（政策保有株式））の処分が安全性に、どのような影響を及ぼすかを問うている。新聞記事を取り上げたのは、決算書分析の学習により、経済情報にも興味を持って欲しいという願いが込められている。

先ず、安全性分析に係る基本的指標を計算させ、これを理解しているかを問うている（テキスト、P.52、P.58～59、P.60.）。これらの指標の意味を確認したのち（Bさんの最初の会話文）、投資有価証券を売却して得た資金を、長期借入金の返済にあてた場合と新たな投資にあてた場合の基本的指標に与える影響を問うている。これが本問の最大の意図である。

ところで、指標計算には各3点をあてている（第2問、第4問）。これに対し、ここでは、2点に留めている。理由は、一部指標について気が付けば、計算作業の労から解放されるからである。

さらに、本問は敢えて簿記の記録・仕訳を出している。これは、「簿記離れ」といわれる現状にあって、企業の見方に関わる実践から、簿記に興味を持って欲しい、つまり、簿記学習に誘導したいという本試験の意図（「はしがき」（初版：2020年3月））に基づい

ている（具体的には、第2部（学習の展開の部） 第9章）。

また、本問の解答作成作業において、貸借対照表による安全性の問題は、負債の視点から企業を見ていることに帰着することに気が付いてもらえたら、と思っている。

**第4問**は、投資に係る問題である。市場での投資すなわち取引と言え、当該商品つまり株式が高いか安いかを見ることが必須である。そこで、先ず、これ、割高・割安の判断指標、PBR（テキスト、P.70.）とPER（テキスト、P.71.）を計算させている。会話文では、これらの判断基準を説明しているので、学習の参考にして欲しい。

次に、投資であるから、一般的な投資（貯蓄）を含め投資の基本式となる利回りすなわち配当利回り（テキスト、P.71.）を計算させ、会話文では、この評価基準にも触れている。さらに、会社の株主に対する態度を判断する配当性向（テキスト、P.42.）も計算させている。配当性向を支えるは、企業の収益性（第2問）と安全性（第3問）とくに収益性であるが、ここでは、配当性向までに留めている

ところで、株式投資と言え、値上がり値下がりを目指し求める、いわゆる投機家のイメージが強いが、ここでは、株式投資の社会的意味、SEG 投資に言及している。文科省により、ようやく投資教育の重要性、必要性が叫ばれるようになった今、投機家と投資家とは違うことを認識して欲しいという願いも込められている。

**最後に：**本試験の意義として、実際の例（第2問、第3問、第4問）を素材にしている。

したがって、受験生が実際の財務諸表を分析するのに有用になる筈である。言うまでもなく、これは「決算書アナリスト」として必要不可欠な技能でもある。

序に述べると、作問に際し、試験として納得の行く正解を導くための資料を探す苦勞も推察して頂ければ、この上もない幸せである。

なお、正解に誘導するためと、高度な会計学の知識を求めることを避けるために、原資料の数値に修正を加えている点もご理解頂きたい。図書館等で原資料にあたったとき、数値の違いをご指摘頂く可能性もあるので、付言しておく。